



法華宗信報



【サッポロビール博物館】

サッポロビール博物館は、サッポロビール園と同じ敷地内にある施設。明治の面影を残す赤レンガの建物は「北海道遺産」にも登録されています。2016年4月に館内の全面リニューアルを行い、より分かりやすい展示へと生まれ変わりました。

令和元年テーマ

えにしつよく

- ご挨拶／大本山光長寺 原井日鳳猊下
- 北海道のお盆
- 寺院の歴史／帯広市 蓮承寺
- コラム／私の住職日記
- 連載／編集員のおすすめ

北海道の観光スポット ～函館～



159

令和元年7月1日
発行 法華宗宗務院



お盆は「おもてなし」の心

大本山光長寺貫首

原井 日鳳



今、海外からの観光客が急増しています。日本の自然や建築の美しさ、伝統文化の素晴らしさ、食べ物のおいしさなどが主な要因と言われます。彼らの宿泊所は都心や観光地のホテルに限らず、ネットで探した個人住宅も多く、その時彼等がビックリする事があるそうです。それは日本の伝統的な屋に仏間とか床の間、仏壇という特別のスペースがあり、旧来日本人が仏様やご先祖様と共に住み、共に生きて来たその姿に感動するということです。

しかし今日の日本の新しい家屋は飽くまで住人の快適を求める空間ばかりで、多くの住宅設計者も経済的合理性と個人の快適

性しか考えないのです。だから仏様やご先祖様をお招きする所がないのです。現在の便利のために家の品位とか、三世（過去・現在・未来）に亘る優しさが失われているのです。

もうお盆が参ります。日本人は帰省ラッシュにみられるように決してお盆行事を忘れておりません。来年日本で開催されるオリンピックに日本人は「おもてなし」をアピールしてきました。お盆はご先祖様を迎えて「おもてなし」をする大切な時に他なりません。ただ、「おもてなし」がその一時の形だけになつてはならないでしょう。

今日の特徴的な事件に知られますように親による幼児虐待、学校内外のイジメ、高齢者に対するアポ強盗、世間の指導者の慢性的な「ごまかし」など人の心の荒廃は度を越えたものがあります。仏教が大切にしていたものが近年大きな変化をしています。仏様、ご先祖様を大切にしない人が家族や友人、多くの人々を大切にしない人が家族や友人、ご先祖様をはじめ他の命につきす生き方、三世の命を大切にしない真の「おもてなし」に気づく時が近づいて参りました。



◀ 大本山 光長寺（静岡県沼津市）



ふるさとの家にお盆が参ります。都会の高層マンションにもお盆は来ます。ご先祖様を迎える「精霊棚」づくりは、ふるさとには残っておりましょうが核家族の現代の住宅にも仏様、ご先祖様を迎える「スペース」を用意することはできるのです。どんなに小さなスペースでも、「もてなしの心」を込めれば大きな「精霊棚」となるでしょう。私共法華宗は「本門の本尊、本門の戒壇、本門の題目」を常に持つことを勧めています。それが仏様やご先祖様をお迎えする信心となります。



お盆はこの「もてなし」を誰も彼もが發揮できる仏教の大切な行事です。海外の人にも最近注目される行事です。優しさの心で仏様、ご先祖様を「もてなしする」またとない大切な時となります。

近年は自分の利益のみを主張する個人中心主義、自国中心主義が世界中に蔓延しております。今こそ他の命につくし、他の国をも大切にする私共の「もてなし」の生き方、供養の実践を、自信をもって広めて参りたいと思います。

合掌





お盆は地域により七月（新暦）・八月（旧暦）と暦により執り行う月が変わります。農業に携わる方々が多い地域など仕事に合わせて行うこともある様です。

北海道では一部地域で七月のお盆ですが、多くは八月に執り行っております。その中には独特な風習が伝わっておりますので紹介いたします。

『ローソクもらい』

七月七日もしくは八月七日の七夕に行われるローソクもらいは、子供が近所の家々を回り「ローソク出せく出せよ 出さないとかつちやくぞ おまけにかみ付くぞ」と少々怖い文言の歌でローソクやお菓子を貰い歩く風習があります。「かつちやく



～ローソクだせ、だ～せよ～♪の唄を歌い子どもたちが近所の家々をまわり、お菓子などをもらっている場面
(写真提供：小樽ジャーナル)



(写真提供：小樽ジャーナル)

く」とは北海道の方言で「引つ掻く」の事です。文言は各地域で少し違いはありますが、青森からの移住者がねぶた祭りのローソクを集める為に各家々を回った風習を持ち込んだという説もあります。

近年ではこのローソクもらいを「北のハロウィン」と呼ぶ人もいます。

又、七夕という事もあり竹や柳に短冊を掛け、翌日には子供達を連れて川辺から竹や柳を流すなど、地域によって独自の風習として根付いております。



『北海盆唄』

北海道で盆踊りと言えば「子供盆おどり唄」と「北海盆唄」です。それぞれ子供向け・大人向けの踊りとして制作されており、子供盆おどり唄は北海道教育委員会の要請で昭和二十七年に制作され、江別市が発祥として歌碑が立てられている。「シャンコ シャンコ」の歌詞が盆踊り会場から流れると町民が集まりだし祭りが始まります。早い時間は子供盆踊り、次いで大人向けの盆踊りとの二部構成です。

終戦後に炭坑節の流行があり、北海道も幾春別炭坑の盆踊りを歌詞や曲調を多少改めて「炭坑盆踊り唄（北海炭坑節）」として活用していた。こ



れが「北海盆唄」の原型とされている。昭和二十一年の豊平川河畔で唄われたのが最初とされています。三笠市が発祥の地として三笠市中央公園には歌碑が建てられています。

北海盆唄とし



て広まったのは、昭和三十三年頃に当時人気の歌手三橋美智也の歌唱でレコード化され、全国的に知られる事となりました。

北海道は全国各地より移住されて来た方々も含め各所の文化風習が混在して現在の北海道が形成されています。ここで掲載させていただきました内容は一部分を取り上げたに過ぎません。お盆の時節に北海道へお越しの方は一度体験してみてください。いかがでしょうか。



寺院の歴史



北海道の開拓が本格的であった明治時代中期、檀信徒の開拓民がきっかけとなり創立された寺院が数ヶ寺ある。

今回は「帯広市 蓮承寺」をご紹介します。

帯広の開拓

帯広の開拓は北海道に多く見られる官主導の屯田兵によるものではなく、富山、岐阜など本州からの民間の開拓移民によって切り開かれていった。本格的な開拓は、明治十六年に静岡県加茂郡の依田勉三や鈴木銃太郎らを中心とする「晩成社」が開拓団を組織して帯広に入植したことに始まり、これが開拓の先駆けとなった。また、その他にも、何の保護・保障もなく開拓に挑んだ無願開墾（正規に土地貸し下げを出願せずに未開地を開墾すること）も多くあり、他の道内各地では屯田兵が担っていた開拓を、こうした民間の人が中心となつて進めていったことが、帯広の大きな特徴となっている。

十勝の農業

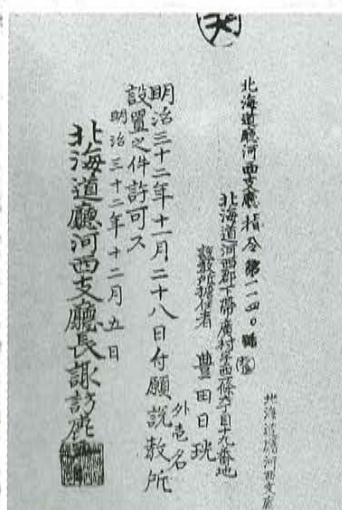
帯広を含む十勝地方は、本州方面とは異なる亜寒帯気候のなかで欧米や本州などの文化を取り入れながら冷害対策などを行い、広い耕地を利用して豆作を中心に発展してきた。また、酪農では昭和二十四年ころから北海道の牝牛を農家に貸付けの制度によって飼育頭数を増加させていき、人工

授精が始まったことで牛の改良が進み、乳質や乳量が向上していった。さらには、国が乳価を安定させる政策などを実施したことで多頭飼育へとつながり、平成三年には飼育頭数が二十万頭を超え、我が国最大の酪農地帯となった。

蓮承寺の成り立ち

明治三十二年十月、開拓が進み多くの移住者が住みついた帯広の地に、題目の道場を切望した日蓮聖人門下の信徒たちは、相寄り合つて寺院建立についての協議を行った。話し合いは順調に進んだが優れた僧侶を招くにはどの門流を選ぶのが適当であるかが一大問題となり、互いに我門流を譲らず協議の結果、抽選が行われ法華宗（本門流）と決定した。

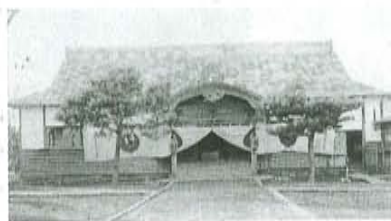
直ちに境内地確保の為、北海道庁に無償貸付の



創草当時の許可書



寺大本山本興寺布教所として念願の道場が建てられた。



旧本堂

認可を求め四百八十六坪を貰い上げた。それと同時に大本山本興寺に僧侶の派遣を申請し、岡山県松壽寺より豊田日琮上人が赴任することとなった。同年十二月二十八日、説教所設置の許可がなされ、五十五坪の本堂兼庫裡を建立し、大本山本能

蓮承寺の開基である豊田日琮上人は来道より六年半の間布教に務めたが、明治三十九年の春、松壽寺入山の為辞任となった。そこで再び後任者を大本山本興寺に求めたところ、四国の國祐寺にいた圓成日暹上人が自ら希望し、同年六月には来道し着任となった。

この時の布教所の信徒は僅かばかりであったが、日暹上人は、すべては法の為と覚悟を決め布教に身を委ね、信徒を増やしていき、大正六年十一月十日、勝原山蓮承寺と寺号を公称した。

蓮承寺は帯広の発展と共に栄えて参詣者の数も多くなった。本堂は手狭となり、増築の声も出ていたが、境内地が繁華街の中心となり、雑多なる商店に囲まれたことで火災の憂いがあった。また信仰上にも影響がでるとみて移転を決意した。

昭和三十一年九月、かつて買い求めてあった地

(現在地)に庫裡を建て、三十四年十月、六十坪の本堂が完成し落慶大法要が奉修された。

昭和三十五年三月十一日、住職後継と約されていた三戸純亮上人が突然遷化し、若林日史上人が継承することとなった。

三十歳で住職となった日史上人は寺門の興隆に尽力。昭和四十五年、境内地の整備拡張、納骨堂・会館の新築、本堂改修、御宝前仏像を新たに造立するなどの堂内仏具の荘厳を行い、昭和四十六年、納骨堂・会館落慶法要を奉修した。昭和五十六年、庫裡東棟を新築し諸堂の改修を行い、宗祖七百遠忌並びに諸堂落慶法要が厳修された。平成五年、庫裡西棟を新築し、平成十一年には、檀信徒からの多大な協力のもと二〇五坪の大本堂(現本堂)を建立し、開宗七五〇年奉讃開基一〇〇年本堂落慶大法要を奉修した。翌年その法灯を第四世若林暹龍上人(現住職)へと継承する。

暹龍上人は帯広市の人口減少や高齢化を考え、お参りしやすいお寺を主題として諸堂の増改築、



移転時の本堂

境内拡張、整備等を行い、バリアフリー化した。また布教に努め、お寺を開放し、月例講、仏事相談などを行い、多くの他宗の人々を改宗させた。

開拓者は移住後まもなく祠や説教所を建て



現在の本堂

強固な信仰心を持ち続けたという。『河西郡大正村郷土史』には次のようにある。

宗教殊ニ仏教ハ北陸地方ニ於テ尤モ盛ナリ。随テ区域内人民ハ仏教ヲ尊心スルコト極メテ厚ク、其信仰ノ深キ局外者ヲシテ怪訝ノ念ヲ起サシムルコトアリ。毎月数回寺院ニ参詣スルノ外、行住坐臥、口ニ呪文ヲ誦シ朝夕燈ヲ捧ゲテ仏前ニ礼拝ス。

それは厳しい荒涼とした状況の中で挫けそうになる過酷な生活であったが、神仏に心の拠り所を求め、その信仰を精神的支柱とし、人々の絆を確かなものにしようとしたと考えられる。開拓移住者たちが「帯広の地に題目の道場を」と願って点けられた法の灯は今猶その後継者たちによって守られている。

北海道の観光スポット

当編集員が北海道各地のおすすめスポットを独断と偏見を交えて紹介します。

函館市 函館元町



坂の名所「八幡坂」

函館は、日本で最初に開港した都市の一つであり、明治時代となる13年前(1854年)函館奉行所が設置され、蝦夷地開拓や外交の中心地であったことから、各国の領事館や洋館が軒を連ね、早くから外国人が居住していました。そのため西洋文化と日本の文化が混じり合う独特の文化が発展しました。今でもその面影を残すのが、函館山の麓にある坂の町「函館元町」です。

函館元町は明治・大正時代に建てられた和洋折衷の建物が石畳の坂の町に現存し、異国情緒漂う町並みです。その町並みは時間によって、その雰囲気が変わります。明るい昼間は、色鮮やかな洋館と綺麗な海が一緒となり素晴らしい景観です。日が暮れると、洋館がライトアップされ幻想的な町歩きが楽しめます。



元町地区のランドマーク「旧函館区公会堂」



帝政ロシア時代の建造物「旧ロシア領事館」

古民家を改装したカフェなどもあり、ゆっくりと異国情緒を感じながら、散歩することができます。

「私の住職日記」第7回

「応 援」

苦小牧妙見寺住職 末澤 隆 信

あるお宅の仏壇に御参りした時の出来事。亡きおじいちゃんの命日に一族男女、四世代が集まっていた。連れ合いだったおばあちゃん、年配の息子さん夫婦、若いママになつて孫娘達、そしてヒマゴになる小さな女の子達が五人走り回っている。賑やかな仏間で回向のお経を始めたら、仏壇の中に小さな紙を見つけた。何だろう？大きな文字で書かれてる。

…お…ぼ…う…さ…ん…へ…、

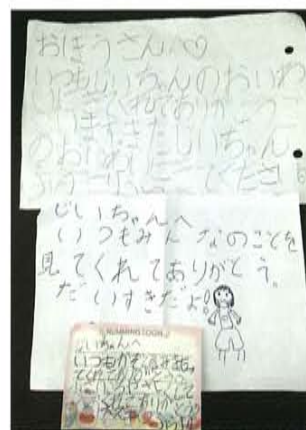
それはその女の子達が書いた手紙だった。

「おばうさんへ いつもじいちゃんのおいおいにきてくれてありがとうございます。またじいちゃんのおいおいにきてください。」
「おばうさんへ、いつもおまえりにきてくれてありがとうございます」

「じいちゃんへ いつもかぞくをみまもってくれてありがとう。小さいころやさしくしてくれてありがとう。大スキ♡」

なんて優しいこどもたちだろう。わたしをこんな風に思ってくれていた。いつも鶴やコマの折り紙を手渡してくれる彼女たち。大きな声で「なむみょうほうれんげきょう！」と唱える彼女たち。嬉しかった。元気が湧いた。素晴らしい応援をもらった。お経を上げながら涙が込み上げてしょうがなかった。お題目の信仰を大事にする家庭は、先祖を敬い、人に感謝する子ども達を育んでいた。

法華経は、いつだってどこでだって誰にだって仏様が見守っていると説く。南無妙法蓮華経のお題目。それは仏心をつなげる言葉。助け合いの心を生む言葉。だれかを応援して誰かに応援されて、みんな生きている。お盆の季節、お題目を唱えよう。一生懸命応援したくなる人にきつと出会う。一生懸命応援してくれる人にきつと出会う。



編集後記

皆様「イランカラッテ」(こんにちは)

元号が令和となつて初の法華宗信報発行です。北海道教区の担当も今年一年となりました。

私の勝手な想いかも知れませんが、日本は新元号を迎え、北海道も命名151年目と新たな歴史の元年となったと思っております。先の編集後記にも書いておりましたが、「北海道は命名150年と歴史は本州と比べ浅い」ものですが、それ以前に自身の住んでる土地に関心がないなど感じてしまう事がありました。

皆様は今年の4月19日に参院本会議にて、「アイヌ新法」が可決、成立した事を存じでしたでしょうか。そこでは、法律として初めてアイヌ民族を「先住民族」と位置付けられたのです。私は今まで認識していた「先住民族」とは何だったのだらうと感じ、北海道という土地に関して、また、アイヌ民族の方を知っているようでも何も知らなかった事に反省いたしました。

未来があるという事は、今の現在に至るまでの過去があるという事で、私たちはどれだけの多くの事を学んできたのでしょうか。この新しい時代の幕開けで、先の時代、多くの先人の遺してくれた歴史を多く気付き学ぶ事が出来るという事は、とても有り難い事と幸せに感じるようになりました。

